

企画書作成時の注意点及び掲載内容

1. 技術研修期間について

- ・技術研修（遠隔研修）期間は2週間～3週間です。

2. 遠隔研修実施場所について

- ・原則、遠隔研修プログラムは四国県内で講師、視察先及び遠隔研修教材作成に必要な撮影先や情報収集先を選定することとします。但し、四国県外の講師及び視察を研修に盛り込むことで研修員の理解が深まり、研修成果の向上が見込める場合には、四国域外のコンテンツを含むプログラムをご提案下さい。

3. 遠隔研修プログラムの構成について

- ・別添の「2022年度 JICA 四国青年研修実施予定案件にかかる概要等」及び下記に記したサイト等を参考に、研修対象国が抱える問題、課題を分析した上で遠隔研修プログラムをご提案下さい。

JICA ホームページ「各国における支援」

(URL:<http://www.jica.go.jp/regions/index.html>)」

外務省ホームページ「政府開発援助（ODA）国別データブック

(URL:<http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/shiryo/kuni.html>)」

- ・分析した内容を基に達成目標を決め、その目標を達成するために必要な知識、経験を得るためにどんな講義や視察が必要かを考え、日々のプログラム内容を具体的に設定して下さい。
- ・研修前半に当該研修分野の日本国レベルでの取り組みや組織についての説明があると、その後の県や市レベルの話の際に研修員の理解が深まります。
(例) 県教育委員会での講義の前に文部科学省の説明がされているなど。
→講義内容や視察先が一体どのレベルの話をしているのか、日本としての取り組みを伝えることが重要です。
- ・講義や視察だけでなく、当該研修分野に精通する日本人と意見交換できる場を設けることが望ましいです。

4. 研修中の休日について

- ・遠隔研修期間中の週末は、自主研修日（休養日）として下さい。

5. 研修監理員について

- ・遠隔研修実施にあたっては研修実施言語を話す研修監理員が配置されます。研修監理員は遠隔研修コンテンツ作成時の通訳、双方向接続（リアルタイム接続）時の通訳、課題の回収等サポートを行います。

6. 別紙3「企画書（様式）」について

別紙3「企画書（様式）」の「4. 具体的日程案と成果」で日程案と個々の研修で期待される研修成果については別表にて具体的に記載して下さい。その際に考えていただく日程は、下記の黄色の期間の技術研修プログラム期間となります。白色の日程については既定のプログラムとなり変更ができませんので、ご注意ください。

青年研修 遠隔研修プログラム日程例 (参考事例: 保健衛生、時差1～5時間の国を対象)				
技術研修 日数	日付		形式	研修内容
1	6月8日	月	ライブ型	プログラムオリエンテーション インセプションレポート発表
2	6月9日	火	ライブ型	講義「研修実施機関の取組み」
3	6月10日	水	ライブ型	講義「日本の公衆衛生行政の課題と展望」 講義「公衆衛生とリプロダクティブヘルス」
4	6月11日	木	オンデマンド型	視察「〇〇医療センター」
5	6月12日	金	ライブ型	講義「公衆衛生教育の現状と課題」 視察「〇〇看護助産師学校」
6	6月13日	土	-	自主研修日
7	6月14日	日	-	自主研修日
8	6月15日	月	ライブ型	講義「大都市での感染症対策の現状と課題」
9	6月16日	火	オンデマンド型	視察「〇〇大学附属病院」
10	6月17日	水	ライブ型	中間振り返り 医療従事者との意見交換①
11	6月18日	木	ライブ型	講義・視察「〇〇学校での衛生教育の取組み」
12	6月19日	金	オンデマンド型	視察「保健所での乳幼児健診」
13	6月20日	土	-	自主研修日
14	6月21日	日	-	自主研修日
15	6月22日	月	ライブ型	講義「日本の保健所の役割」
16	6月23日	火	ライブ型	最終振り返り 医療従事者との意見交換②
17	6月24日	水	ライブ型	総括レポート準備
18	6月25日	木	ライブ型	総括レポート発表会 評価会・閉講式